

地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

平成29年12月発行 NO-63

地域リハ支援センター



高次脳機能障害セミナー実務編

平成29年12月9日(土) 神奈川工科大学厚木市子ども科学館サイエンスホール250にて、高次脳機能障害セミナー実務編を行い、70名を超える参加がありました。今セミナーの基調講演として、高次脳機能障害支援において多方面で活躍されている、東京慈恵医科大学附属第三病院リハビリテーション科渡邊修先生に「高次脳機能障害の基礎ーリハ医の立場からー」とお話をいただきました。約20年愛用されているという脳の模型を持参して講義をしていただき、参加者全員から大変わかりやすいというアンケート結果を頂戴い



たしました。その後は、神奈川リハビリテーション病院のスタッフである、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、就労支援、高次脳機能障害相談支援コーディネーターそれぞれの立場から講演をさせていただきました。支援を展開していく上で適切なアセスメントを行い、高次脳機能障害の支援では、医学的リハ、社会リハ、職業リハと様々な段階を経て社会参加を進めることになります。

相談を受ける支援コーディネーターは、現在どの段階であるのかを確認し、適切なサービス利用等に繋げていく支援をさせていただいています。医療、介護、障害、就労の連携があるからこそ、社会参加を目標とした支援が可能になるため、今後も多職種が連携を図れるような場づくりを意識していきたいと思います。

(佐藤 健太)



平塚市障がい者自立支援協議会 「相談支援専門員研修会」



平成 29 年 12 月 21 日（木）、平塚市障がい者自立支援協議会・当センターの主催で、相談支援専門員を対象とした「平塚市障がい者自立支援協議会 2017 年度第 3 回相談支援専門員研修会」を行いました。内容は、①「神奈川県リハビリテーション支援センターの取り組み」を報告した後、②平塚市内の相談支援事業所と当センターが連携して支援を行った重度身体障害と高次脳機能障害が重複した方に関する「事例検討会」を行いました。

事例検討会では、事例提供者であるソーレ平塚生活支援センター加藤様から事例概要を述べていただ

いた後、グループワークで情報収集が必要なポイントの検討をいただき、グループと事例提供者間での一問一答形式でアセスメント内容を充足させ、それらに基づいて支援プランニングを行うというプロセスで進めました。途中、当センター職員より情報収集や制度活用、身体機能評価の勘所等をお話することで、障害者支援における情報収集やリハビリテーションのポイントをお伝えし、従来の福祉サービス中心の視点からステップアップを狙ったアプローチを行いました。

障害福祉サービスに関わる相談支援専門員の皆様から、生活や日中活動場面でリハビリテーションに関する助言等を受けづらいと伺っています。また、地域の支援者が当センターの存在は知ってしながら、具体的な活用方法が十分周知されていない側面もあると感じています。今後も、このような機会を通して、地域で障害児者や高齢者とそのご家族を支援する皆様のお役にたてる方策が見いだせるように取り組んでいきたいと思ひます。

（瀧澤 学）

かながわりハビリテーション・ケアフォーラム 災害とリハビリテーション

神奈川県リハビリテーション支援センターでは、地域リハビリテーションを普及していくための一助として、毎年度「かながわりハビリテーション・ケアフォーラム」を開催しております。第 14 回目となるテーマは「災害とリハビリテーション ～安定した生活に戻るために、被災地から学ぶ～」です。

平成 23 年東日本大震災を契機として災害後のリハビリテーションへの対応がクローズアップされました。地震や豪雨による水害、土砂災害などの災害後に安定した地域生活へ戻るためには、どのような取り組みが必要となるのでしょうか。今回のフォーラムでは東日本大震災、熊本地震を経験され、地域リハビリテーション活動を行われてきたお二方のお話を伺い、シンポジウムでは県内のリハ専門職にも加わっていただき、リハビリテーションの視点から神奈川県の災害後の地域生活に向けた取り組みについて皆様と考えていきたいと思ひます。

日 時：平成 30 年 2 月 3 日（土） 13:00～16:30

会 場：横浜情報文化センター 6 階 情文ホール（横浜市中区日本大通 11）

※ホームページ及び携帯サイト、FAX でお申し込みください。

FAX の場合にはフォーラム案内の用紙、もしくは氏名、職種、勤務先、連絡先住所、電話番号、FAX 番号を記載して送信してください。

（泉 忠彦）



新病院完成 12月から本格始動しました!

地域リハビリテーション支援センターは1階外来受付の後ろ「F」の部屋になりました。これまで通り、リハ専門相談、リハ専門研修、地域リハ推進など新病院で気持ちを新たに頑張っています。皆様、これからもよろしくお願いいたします。(職員一同)



リハ専門相談 事例紹介シリーズ⑦

心と体の負担、リフトが担います

「娘さんの腰が限界です」とケアマネジャーから電話でリハ専門相談を受けました。脳梗塞のあと認知症のある90代の母と娘さんが同居している家庭についての相談でした。本人は安定して座っていられず、小柄で足が着かないために抱え上げて介助していました。

抱え上げによる介助は、介助者だけではなく本人にも負担が大きくなります。また、トランスファーボードでの座位移乗も倒れないように常に体を支えるため思うように負担が減らないこともあります。このような場合、リフトを使った介助が有効になります。リフト移乗は手間は多くなりますが、一度手順を覚えると本人と介助者の負担が激減します。負担の多い介助を続けてできた拘縮や褥瘡の予防にも有効であるとの報告もあります。本人の体に合った吊り具選びも成功の秘訣です。

今回の相談の方にもリフトでの介助を提案しました。まずは介助者自身にリフトに乗ってもらい、体にやさしいことを体感してもらいました。そのうえで介助者がリフトを操作し、本人の移乗をしました。吊り具の選定とその後レンタルを開始し、リフトを使い始めて、少し介助者の心と体に余裕ができたようです。

(平田 学)



平成29年度4月～12月リハ専門相談実績(12月15日時点)

4～12月(12/15時点)	新規	継続	電話	訪問	来所
脳性麻痺	14	26	28	6	5
神経・筋疾患	17	37	34	11	7
脳血管障害	22	11	30	2	1
脊髄疾患	8	16	16	5	1
脊髄損傷	7	1	6	1	1
骨関節疾患	5	2	7	0	0
後天性脳損傷(除CVA)	6	10	12	3	1
知的障害	10	14	15	7	1
内部疾患	0	0	0	0	0
その他(切断・加齢等)	12	1	10	1	2
合計	101	118	158	36	19

4～12月(12/15時点)	訪問	来所
補装具・福祉用具機器	18	8
環境整備	2	3
身体機能評価	7	1
ADL指導	0	0
訓練プログラム指導	1	1
介護指導	5	3
支援内容検討	3	1
医療	0	1
その他	0	1
合計	36	19

2017 年度第 2 回政令都市と 神奈川リハの情報交換会

平成 29 年 12 月 22 日に相模原市の南保健福祉センターにて、今年度 2 回目の政令市と神奈川リハの情報交換会を行いました。県の障害福祉課、横浜市総合リハビリテーションセンター、川崎市（北部リハビリテーションセンター、れいんぼう川崎、高津区高次脳機能障害地域活動支援センター、中部リハビリテーションセンター、南部地域支援室）、相模原市（障害政策課、かわせみ会）の担当者の方に参加していただきました。

今回は、平成 29 年度現在までの相談支援状況の報告のほか、平成 29 年度の事業実施状況、当事者・家族会、支援者向けの研修の開催、医療機関との連携、相談支援や通所等について情報交換を行いました。特に高齢の脳血管障害の方への相談体制や失語症の方への支援及び地域の当事者会に関する情報交換が熱心に行われました。

このような情報交換会を通して、支援体制や社会資源の情報共有を行い、神奈川県全体できめ細かい支援ができるよう、今後も努力していききたいと思います。（永井 喜子）

高次脳機能障害事例検討会 in 大和

平成 29 年 11 月 30 日に大和市障害者自立支援センターにて、高次脳機能障害事例検討会 in 大和を開催しました。本事例検討会は高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業（障害者総合支援法）の一環として各圏域にて開催している事例検討会の一つであり、相模原、茅ヶ崎での実施に続き、今年度 3 回目の開催となりました。普段より高次脳機能障害者支援に関わってくださっている地域の支援者の方を中心に 20 名の参加をいただきました。



就労への意欲が低下しているケースへの支援ということで皆さんから様々なアプローチの方法を提案していただきました。その中で高次脳機能障害の支援のポイントでもある、「うまくいく生活の組立」や「成功体験を積み重ねる」ことの重要性を改めて考える機会となりました。

今回の事例検討会では、高次脳機能障害の方を受け入れ始めた事業所の職員の方にも参加いただき、高次脳機能障害者への支援方法やポイントについて実際のケースに触れながらイメージを持っていただくことができたのではないかと考えています。今後も地域の支援者の方とともに高次脳機能障害支援について学び、発展させていけたらと思います。（永井 喜子）

編集後記：「だより」年内に届けたいと思いながら、遅くなり、届くころには年を越しているでしょう。今年の反省と来年の抱負、個人的にはメタボ解消、適正体型と言いたところですが、支援センターとしては、地域リハ連携指針に沿って県内の地域リハの充実、多機関連携などを一層進めたいと思います。本年はいろいろお世話になりました。よいお年をお迎えください。（泉 忠彦）

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
TEL:046-249-2602 FAX:046-249-2601